

# 土浦の自慢

## 昔から本質は変わらない 早期幼児教育の重要性

土浦幼稚園は今年、創立130年を迎えます。茨城県で一番古い歴史と伝統をもつ土浦幼稚園は、土浦西小学校(現・土浦小学校)附属幼稚園として明治18年4月15日に西小学校の一室に仮開園し、同年10月17日に開園式を行いました。

創立時はフレーベル教育法を基にした保育が展開され、園児の増加により明治20年に新園舎を増築しました。大正13年、大手町にモンテッソーリの「子どもの家」を模範にした園舎と園庭を新築しましたが、老朽化して昭和55年に建て替えられました。

平成24年4月にいくぶん幼稚園と統廃合し、文京町で再スタートしました。

土浦幼稚園  
園長 福田明彦先生



幼稚園には、遊びの中で子供たちが話し合い解決できるようにそとと導く、昔と変わらない教育がありました。先生たちが、遊具や用具を工夫して配置し、子供たちが自由に創造的な発想が遊びの中で生まれるような環境構成を行っていました。

### ★フレーベル教育法

世界で最初の幼稚園を創設したドイツの教育家フレーベルが、幼児教育法を開発し、子供たちが楽しく遊びながら、表現力や認識力、想像力を自然に学べるようにと20種の教育遊具「恩物」が生まれました。

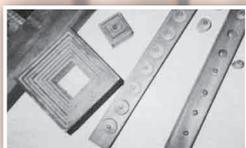
恩物には、シンプルな色と形の構成の中に、計算された学びの設計があり、子供たちが実際に体験し、楽しみながら学習していきました。恩物の歴史は今へとつながり、素材や形を再構成し、現代にも生かされています。



第一恩物 六球



かるた



数の教具

## 土浦幼稚園 歴史のおはなし

明治9年  
(1876年)

日本で最初の幼稚園が東京女子師範学校に開園(現在のお茶の水女子大学附属幼稚園)

明治18年

土浦西小学校(現在の土浦小学校)の附属幼稚園として開園

明治20年

土浦尋常小学校附属幼稚園に改称

昭和2年  
(1927年)

アメリカ合衆国から「青い目の人形」が寄贈され、アメリカ人形歓迎会を行う

昭和10年

土浦町立土浦幼稚園として独立改称

昭和15年

土浦市制施行



アメリカ人形歓迎会



全園舎(大正13年3月)



青い目の人形



保育風景(昭和3年頃)